

化学メーカー、クレハの子会社「クレファイン」(東京・中央)による不正輸出事件。軍事転用可能な製品の無許可輸出を繰り返していた背景には、審査を省き納期に遅れないようにする意図があったとみられる。警視庁は、常習的に虚偽申告を続け、輸出規制を骨抜きにした悪質性は高いと判断したが、国際競争が激化する中、「不正輸出の理由の9割は納品遅れへの懸念」との指摘もあり、輸出許可の審査迅速化が課題とされる。

「納品が間に合わないとは言えなかった。無理

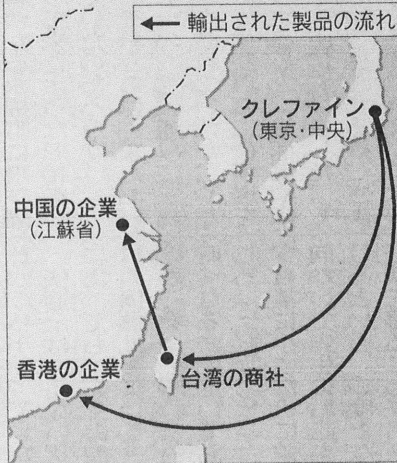
クレハ子会社不正輸出 納品焦り規制逃れ

国際競争激化
審査の迅速化課題

しても送りたかった。輸出規制対象だった炭素繊維製の板「PEEK(ポリエーテルエーテルケトン)板」を無許可で輸出したとして書類送検されたクレファインの元管理部長(44)は、警視庁公安部の調べに動機をこう説明した。

元管理部長は3週間程度かかる輸出審査を回避するため、一定額以下の輸出品について輸出許可手続きを不要とする「少額特例」制度を悪用。製品価格を偽った申告書類を偽った申告書類

クレファインによる不正輸出の流れ



を東京税関に提出しているクレハが2008年9月、この台湾の商社と共同出資で設立したのが、製品の輸出先の大半をアジアに大きな販売事件の舞台となったクレファインだった。

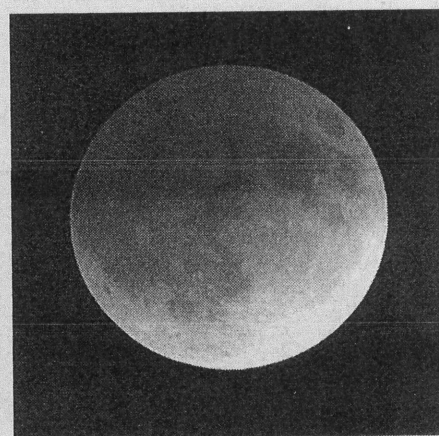
「台湾商社との取引は経済産業省安全保障

税関関係者はクレハ側を「内部統制が甘すぎる」と批判する一方で「不正輸出の理由の9割は、企業間の競争が激しくなる中での納品遅れへの懸念だ。審査に時間がかかる」と民業を圧迫する恐れがある」と課題も指摘する。

輸出管理に詳しい橘善輝・大阪大特任准教授は「企業は法令順守の観点から審査に時間がかかる前提で準備を進めるべきだ。ただ経産省も審査迅速化に向けた更なる対策を検討してほしい」と指摘している。

優先度が高く、納期へのプレッシャーも強かったようだ」と警視庁幹部。クレハ側は一般ビジネスとして製品を輸出していたが、同幹部は「一部は台湾の商社を経由して、中国企業に買い取られ、軍事転用された疑いもある」と懸念する。

易検査官室によると、軍事転用の恐れのある規制品は15分野330品目。輸出許可申請は年間約1万8千件に上る。輸出審査は経産省本庁職員約40人と出先機関の担当者が担う。輸出先に懸念があったりする場合に許可を得るまでに2〜3カ月かかる場合もあるという。



地球にすっぽり

全国で皆既月食

月が地球の影にすっぽりと入る皆既月食が10日深夜、日本列島全域で起きた。

月は午後9時45分から南東の空で欠け始め、午

皆既月食となった月

(10日、大阪市中央区)

後11時5分には全て隠れる皆既状態に。皆既は約50分間続いた。

国立天文台によると、今回は欠け始めから終わりまで、全ての経過が日本の上空で起き、2000年7月以来の好条件という。

月食は、太陽と地球、月が一直線に並んだときに起きる。地球の大気がレンズの役割をするため、月は影に入っても真っ暗にはならず、明るいオレンジ色から黒っぽい色まで、条件によりさまざまな色になる。

近畿地方では同日夜、雲が多く、月食観測にはやや不向きな空模様だった。